

山口大学 埋蔵文化財資料館だより

No. 3

[1988年秋の号]

山口大学埋蔵文化財資料館

企画展《さわってみる歴史》第2回

古代人の心の世界を、のぞいてみませんか。

『古代人の信じたもの』展 好評開催中!!

期間 10月24日～12月10日

[日曜祝日・土曜午後 休館]

場所 埋蔵文化財資料館

展示協力 人文学部考古学研究室

☆☆☆☆☆ みどころ ☆☆☆☆☆
埴輪(はにわ)と、死者への供え物
古代のアクセサリ—
まつりに使われた道具
石や土器に書いたお経
etc.etc...

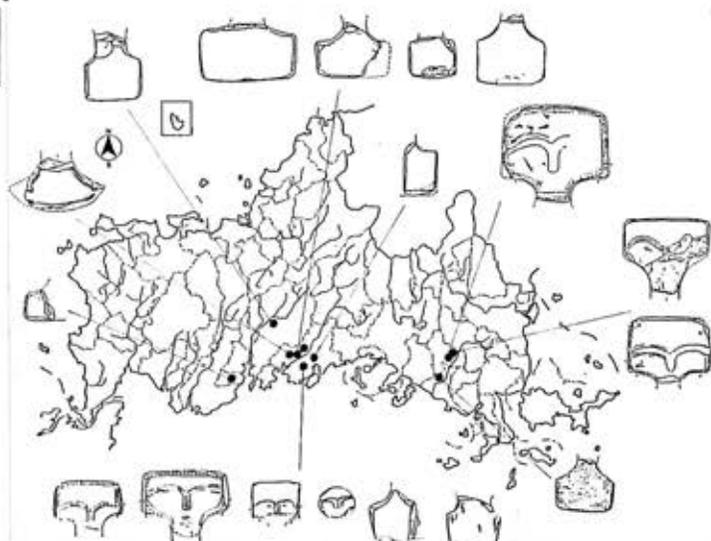
展示室には、弥生時代のまつりに使われた土笛の音が流れています。



壺の形をした埴輪



ミニチュア品(祭祀用)



分銅形土製品(祭祀用):弥生時代

目次

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 『古代人の信じたもの』展 好評開催中…(1) | 考古学今昔物語……………(4) |
| Q&A …原始の生活は快適だった!? …(2) | 接点 3 …【地質学と考古学 - 火山灰 -】…(5) |
| 遺物からの「発見!!」…鳥形木製品…(3) | 業務報告・図書寄贈・資料貸出…(5・6) |

Q & A 原始の生活は快適だった!?

現在は昭和。では、人類最初の時代は？

旧石器時代と呼ばれる、1万年前～約300万年前のたいへん長い期間です。人々はまだ土器という器すら知らず、石や木・骨の道具しか持っていませんでした。テレビで知られる“はじめ人間ギャートルズ”が活躍した時代と言え、少しは身近に感じられるでしょうか。

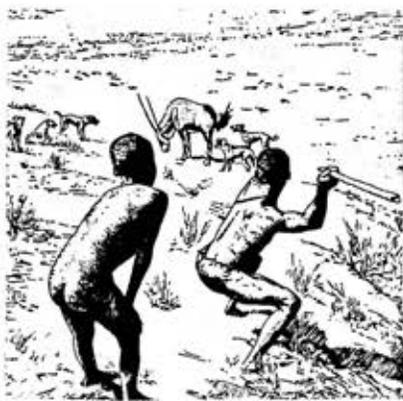
当時の人々はどのように食料を確保したのでしょうか。大前提として人間は食べなければ生きていけません。まず考えられるのが、動物を狩ること・木の実などの採集、ということです。狩猟したことは石の槍や骨製道具の存在から分かりますし、採集したことも当時食べられる植物が多かったことや、民俗例を含めると、間違いのないでしょう。

これまで、かれらの生活は動物を追った頻繁な移動生活という考えが方が主でした。肉はおいしく栄養も取れるので、間違いではありません。ただ、採集活動も活発であったという声があります。それは食料源を安定してとれるからです。狩猟対象の動物は移動しますが、植物は動きません。豊富な食料源としての森の近くにいれば、狩をしなくとも食料が手に入りますし、そのような場所には動物も多く集まったことでしょう。しかし、定住はできません。植物の実がなくなってしまうと、移動も必要でした。彼らは、その実を全て採り尽くす前に移動しました。それは、再び多くの実をつけさせるための手段ともいえます。自然を壊すことはしなかったのです。

住まいに関してはどうでしょう。都合の良い洞窟などを見つけては移り住んだのでしょうか。日本では洞窟に住んだ例は数例で、9割以上は平原に、しかも屋根をもった彼らなりの家があったのです。がっしりしたものも多く、定住とまではいかないにせよ、数日間隔での移動生活は考えにくいところです。

服装はどうでしょう。残念ながら現段階、検討できる資料がほとんどなく、諸外国の民俗例から、まるはだかではなかっただろうと推測できるのみです。

また、墓や調理施設などがある外、動物の骨を道具に作り変えるなど、彼らの生活は野蛮な、その日暮らしといったものではなく、きちっと計算されたものでした。少なくとも、獲物を追って何日も飲まず食わずの生活を送っていたというイメージではありません。現代ほど生活環境は甘くありませんが、夜は一日の疲れをとり、きれいな星ぞらのもと、家族団らん未来の夢を語りあったのでしょうか。



『日本文化の歴史』(1979)所収。

【資料紹介コーナー】 遺物からの「発見!!」

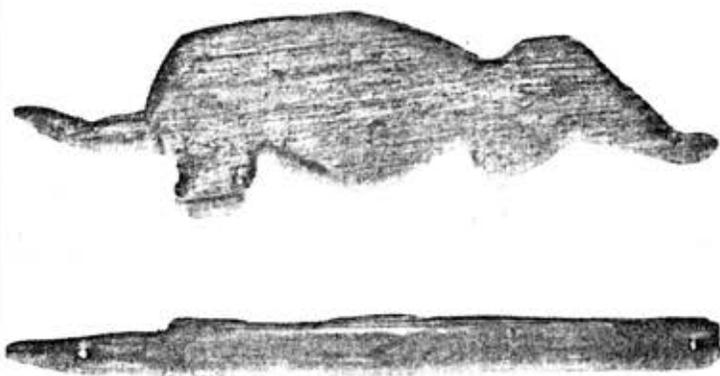
とりがたもくせいひん

★ 鳥形木製品

鳥形木製品は農耕儀礼に関するものと推測されている。それは、鳥というものが「^鶯牟(鶯落)神」= (穀物の守護神) の使いとされる信仰を初め、鳥形木製品の出土する場所や位置、日本の銅鐸・土器片に描かれている鳥と農耕関連風景のセットの図柄、また、中国・朝鮮半島における銅製品に見る同様の図柄の存在からである。

白石遺跡出土の鳥形木製品は、弥生時代の終末から古墳時代初頭のものと考えられているが、鳥形木製品がそれをはめ込む柄と共に、しかも組み込まれたような出土状況にあったことは、鳥形木製品の使われ方を示す一例であり、全国初のものである。近代朝鮮半島で行われていた^鶯牟風習での使われ方と酷似しており、示唆するところが大きい。

稲作が生活の基盤であった弥生時代、また古墳時代にあっては、豊作と凶作では雲泥の差が生じた。凶作時=死という事態にもなり得た。人々は常に豊穡を祈願し、農耕祭を盛大に行なった。豊作・凶作は天候に左右されるものだが、当時はそれも神の仕業であった。人々は神へ祈った。しかし、神は天に居り、直接会うことはできない。そこで、羽をもち、神の世界(空)へ行ける鳥は唯一神に仕えるものとされ、神と人間との橋渡しとして尊ばれた。このように、農耕儀礼においては、鳥(形)は不可欠なものであった。蛇足であるが、山口市にみる「^鶯牟」という地名は、先に述べた「^鶯牟」の名残と考えられる。



この“鳥形木製品”は、ただいま展示中です。



ちようかん 鳥杆風習とは…

その 杆の先に鳥形をつけて立てること。その意味は魔よけなど様々で世界で広くみられる。

考古学今昔物語

東京都大森貝塚。教科書にもでてくるこの有名な遺跡の発掘（明治10年）が、日本における考古学という学問の始まりです。簡単に言ってしまうと、発掘を指揮したアメリカ人モースのいわば“輸入学”でした。考古学はもともと、ヨーロッパに起原をもつもので、現在、多くの国々で研究されていますが、考古学が進んでいる国は平和な国です。これは平和であるからこそ考古学ができるという表裏一体をなすものです。

話をぐっと新しくしましょう。

きらびやかな遺物を出した奈良県藤ノ木古墳。テレビでご覧の方も多いと思います。発掘調査とは、古墳ばかりを掘るものではありませんが、現在、日本全国で年間どれくらいの調査がなされるのでしょうか。その数はざっと5000件以上…。驚かれた方も多いでしょう。

1960年代、高度成長期とあいまった開発ラッシュは、数多くの遺跡を掘り起こしました。初めは、そのまま遺跡が壊された場合もありましたが、現在では、遺跡の存在が推測される土地については、工事等を行なう場合、あらかじめ調査を行なう（緊急調査）システムになっています。

また、緊急調査とは別に、学術調査があります。これは、開発行為に関係なく行なうもので、先の大森貝塚の調査はこれに当たります。今日、緊急調査の数は膨大で、よって、得られる資料も膨大かつ貴重です。しかしながら、調査終了後には遺跡は姿を消すことがほとんどで、こんなすばらしいものを出した古墳を見に行こう、と思っても、すでにビルが建っていたりもするわけです。ここには、「遺跡の保存と開発」というなかなか難しい問題があります。

山口市朝田、国道9号線のバイパスに一箇所トンネルがあるのをご存じの方も多いと思いますが、なぜあそこだけ山を削らず、トンネルを作ったのでしょうか。それは「朝田墳墓群」という遺跡をその場に保存してあるのです。この遺跡は全国的にも非常に貴重なものであったため、保存が叫ばれました。しかし、バイパスをつくることも大変重要なことでしたので、遺跡を壊すことなく、バイパスを通すため、遺跡の下にトンネルを作ったわけです。

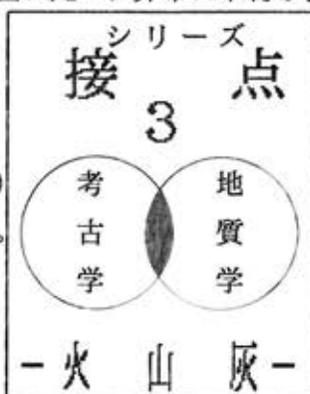


壺棺の出土状況

『朝田墳墓群』(1978)より。

その時は多くの費用と、てまひまをかけたことになりましたが、現在遺跡一帯は、市民の学習・憩いの場として生まれ変わっています。

日本は火山地帯である。今から1万年以前（旧石器時代）の活動は特に激しかった。また土壌が酸性を帯びているため当期の遺物は、石を除き骨や木など有機質のものは腐って土壌化している。この点では諸外国に比べ、非常に不利な状況にある。だが逆に、有効利用できる点もある。すなわち旧石では、数種の火山灰層もその構成することで、遺物の年代が位置づけで確認されるならば（広域火山灰）検討ができ、地域差が追及できる。きるものは多数あり、中には日本度調査の教養部複合棟地区では、前期にあたる）の広域火山灰が指



器時代の遺物が含まれる地層員であり、降灰年代を特定される。同一火山灰が広範囲より多くの資料の下で比較・これまで、降灰年代が特定で全国を覆うものもある。昨年今から6300年程前（縄文時代）摘されつつあり、年代決定に

【次号は…『岩石学と考古学 -石の産地推定-』】

業務報告 【昭和63年8月～10月】

★調査……立会調査1件を、下記の学内工事に伴い実施。

教育学部附属光小学校 電気配線に伴う支柱基礎工事(8月26日)…顕著な知見なし。

★資料収集……蛸壺(たこづば)

当館には古墳時代のものと思われる素焼のイダコ壺四点が収蔵されている。比較資料とするため、山口市秋穂町で現役のイダコ壺の収集を行った。七点を譲り受けたが当地では約10年前から耐久性に優れたプラスチック製が使用され、やきものの蛸壺は次第に姿を消す運命にある。

* たこづば 弥生時代に、近畿で見られ始める。古墳時代も終わりになると、瀬戸内沿岸で認められる。小形のもの、主にイダコをとったものである。

『日本の歴史1』(1974)所収。



★図書寄贈【8月～10月】

凡例：〔発行所（個人寄贈者）〕…『書名』

〔新潟県大潟町教育委員会〕…『丸山遺跡』

〔筑波大学歴史・人類学系〕…『歴史人類 第16号』

〔立正大学文学部考古学研究室〕…『江戸・仙台坂遺跡(1)』『考古学研究室彙報 第24号』

〔南山大学人類学博物館〕…『紀要 8 能田旭古墳』 『紀要 9 平田古墳群』

『紀要 10 高蔵貝塚 III』

- [同志社大学考古学研究室]…『同志社大学考古学シリーズ IV 考古学と技術』
 [奈良大学文学部考古学研究室]…『文化財学報 第5集』『菅原遺跡』
 [(財)枚方市文化財研究調査会]…『枚方市文化財年報 VIII』
 [島根県江津市教育委員会・浜田市教育委員会]…『大平山遺跡群調査報告書』
 [山口市教育委員会]…『瑠璃光寺跡遺跡』
 [(財)北九州市教育文化事業団 埋蔵文化財調査室]…『埋蔵文化財調査室年報 4 昭和61年度』『徳力土地地区画整理事業関係調査報告 I』『上徳力遺跡』
 『朽網・原遺跡』『楠橋貝塚』『寺田遺跡』『菊水町遺跡』『砥石坂遺跡・上清水遺跡・新池坂本遺跡』『西池ノ内遺跡』『貫川遺跡 1』
 [大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館]…『宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報 1987』
 [小郡市教育委員会]…『小郡遺跡』『小郡遺跡 II』『小郡中尾遺跡』『三国の鼻遺跡 IV』『横隈狐塚遺跡 IV』『大板井遺跡 VII』『津古生掛遺跡 II』『鈴隈1号墳』『稲吉元矢次遺跡』
 松尾征二氏 「小路遺跡周辺の第四系」『小路遺跡 抜刷』「問田片川遺跡における炭質物と¹⁴C年代」『山口県の自然 第5号 別刷』「問田片川遺跡周辺の地質」『問田片川遺跡 抜刷』「吉南地域東部の更新統」『岡村義彦先生退官記念誌 抜刷』「秋穂町の地形と地質」『秋穂町史 抜刷』

★資料貸出記録 ＊図書 10件(教官3 学生3:返却済)

 * 本冊子は、各講座、教官に一部ずつ配布していますが、ぜひ学生個人でもお持ちい
 * ただきたいと考えています。当館で配布しておりますので、ご希望の節は気軽にご来
 * 館下さい。また、各学部事務室にも置いてありますので、ご自由にお取り下さい。

編 集 余 話

この寒い中、秋の号というのも時期はずれな感じですが、今回いかがでしたか。専門用語は一切使わず、どなたにでもおわかりいただける内容だと思います。文字数が多く、どうも…という方、もう一度チャレンジしてみてください。

山口大学 埋蔵文化財資料館だより
 №. 3 (1988年秋の号)

発行 昭和63年11月15日
 編集 山口大学埋蔵文化財資料館
 〒753 山口市大字吉田1677-1
 ☎代 (0839)22-6111 内線299

利用案内(入館無料)

日・祝 休館
 (平日) 8:30~17:00
 (土曜) 8:30~12:30

